

ZANDEN Model 120 の活用(24)
—Model 120 設定条件の試聴(24)—

1. 始めに

前報(23)に引き続き、アナログ盤を選定して Model 120 の設定条件を替えて試聴していきます。今回は、比較的新しいデジタル録音からの盤を選定しました。

2. Model 120 設定条件の試聴方法

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の導入(2)と同様、下記のとおりとします。

LP-12→(フォノケーブル)→AACU-1000→Model120(アンバランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランス/バランス変換ケーブル)→P&G フェーダー(バランス入力端子→バランス出力端子) →BACU-2000→300B シングルアンプ(バランス入力端子)

なお、クロスチェックの意味で、カートリッジは、ZYX R100-EX とし、接続に関しては、Garrad401 の再構成(10)と同様、下記も使用します。

Garrad401→(フォノケーブル)→Stage1030(アンバランス入力端子→アンバランス出力端子)→AACU-1000→(RCA ケーブル)→Brooklyn DAC+(アンバランス入力端子→バランス出力端子)→BACU-2000→(バランスケーブル)→P&フェーダー(バランス入力端子→バランス出力端子)→BACU-2000→(バランスケーブル)→300B シングルアンプ

音源としては、比較的新しいデジタル録音からの盤を選んで聴いていきます。

SONY Classical LC 06867

2018 Neuyahrs Konzert

リカルド・ムーティ指揮ウイーンフィル

Warner Classics 0190295871871

The Three Tenors

ホセ・カレーラス プラシド・ドミンゴ ルチアーノ・パヴァロティ

ズビン・メータ指揮ロスアンジェルスフィル

ドイツグラモフォン 4835219

J.S.Bach 協奏曲集

ヒラリー・ハーン(Vn) ジェフリー・カーン指揮ロスアンゼルス室内オーケストラ

ewe HQ-100

life

綾戸千恵

3. Model 120 設定条件の試聴結果

試聴は、RIAA の正相からスタートして、種々切り替えて聴いていき、良さそうところで、第 4 時定数も決めていきます。

SONY Classical LC 06867 の Neuyahrs Konzert は、RIAA の正相からスタートして、いろいろと切り替えてみましたが、これ以上にしっくりくるものはこれと言ってありません。第 4 時定数も High のままで良さそうです。

Warner Classics 0190295871871 の The Three Tenors は、RIAA の正相からスタートして、いろいろと切り替えてみましたが、これ以上にしっくりくるものはこれと言ってありません。第 4 時定数も High のままで良さそうです。

ドイツグラモフォン 4835219 の Bach の協奏曲集は、RIAA の正相からスタートしましたが、これでもかなりバランスの取れた音になっています。しかし、TELDEC にしますと、音のメリハリが出てきますし、第 4 時定数を High から Mid にしますと、弦の柔らかさが向上します。Garrad401 の ZYX R100-EX でも聴いてみましたが、位相反転すると、音の焦点が曖昧になってきます。

ewe HQ-100 の綾戸千恵は、ジャケットに USA プレスと表示されています。RIAA の正相からスタートしましたが、十分バランスの取れた音になっています。第 4 時定数は High のままで良さそうです。

4. まとめ。

比較的新しい録音なので、RIAA の正相で上質の再生が得られるかと思いましたが、それほどでもありませんでした。上記は、期待が大きかったので、その妥協点の条件となってしまいました。

以上